

Volunteer Seminar Journal Vol.6

2014 Winter
ボランティアセミナージャーナル

日本ボランティア代表団訪中に参加

11月中旬にボランティア支援室のメンバーが日本国際協力センター(JICE)の招聘で中国四川省の地震被災地を視察しました。2008年5月と2013年4月に震災に見舞われた雅安市芦山県を見学。4月の地震で煉瓦の建物が軒並み崩壊していたものの、すでに復興計画が策定され、再建が始まっています。また、成都にある四川師範大学で震災時における東北大生の取り組みを紹介しました。四川師範大学のボランティア組織は党の指揮のもと学部ごとに支部をもち、毎年数百名の学生を被災地や貧困地域に送り込む大きな組織。事例をそのまま東北の現状に当てはめることは難しいでしょうが、東日本以外の震災について知る貴重な機会となりました。

福長 悠 (大学院文学研究科修士1年)



雅安市芦山県の仮設住宅団地

学生ボランティア支援室 今後のスケジュール

■ 東日本大震災ボランティア 春休みスタートアップフェア

日時: 1/31(金)16:30~18:30、2/7(金)14:00~17:00
会場: 川内北キャンパス厚生会館多目的室(生協食堂すぐ近く)

東日本大震災で被災した方々が3年目の冬を越す手助けを春休みにやってみませんか?
仮設住宅での足湯やカフェの活動、農業支援、まちづくり、福島県での移動保育、学習支援など幅広い学内外のボランティア活動を、各団体のブース出展形式で紹介いたします。
開催時間中、いつでも来場・退場可能です。飲み物・お菓子のサービスもありますので、気軽にお越し下さい。

■ 雄勝スタディツアー報告会

日時: 1/20(月) 18:30~20:00
会場: 川内南キャンパス文学部棟2階227・多目的演習室

2013年9月に実施したツアーを通して感じた、石巻市雄勝町のまちづくりの課題を報告します。また春休みに参加可能な雄勝町で行われる様々な支援活動もご紹介します。

※参加費無料、事前申込み不要。
【お問合せ】kyu.matubara@gmail.com(松原)

■ 春休みボランティアツアー

2つのツアー参加者を既に募集中です!これ以外のツアーも企画中です。左記スタートアップフェアでもツアー内容を紹介いたします!

■ 陸前高田ボランティアツアー 2/8(土)~11(火)

- 8日9:00東北大学川内南キャンパス集合、11日22:00川内南キャンパス解散
- 陸前高田市の仮設住宅で足湯や手芸を通して、被災した方々を支援します。岩手大・神戸大など他大学と一緒に活動します。途中参加・離脱も可能です。
- 参加費3,000円(予定)※食費・入浴代は別途
- 定員:20人、募集〆切:2月3日(月)

【お問合せ】oktk.1921.from.h.to.s@gmail.com(奥山)

■ 復興応援団ボランティアツアー ~農業で被災者雇用応援プロジェクト~ 2/15(土)~16(日)

- 15日9:00仙台駅東口代ゼミ前集合、16日19:00仙台駅東口解散
- 南三陸の農家、小野花匠園さんのいちご作りをお手伝いします。一緒に活動する社会人ボランティアの方々と交流を深めることもできます。
- 参加費:5,000円(予定) ※主に宿泊費。昼食代・入湯料が別途必要
- 定員15名、募集〆切:2月7日(金)

※本ツアーは南三陸町の農業を応援する「復興応援団」(<http://www.fukkou-ouendan.com/>)と共催。

【お問合せ】tanookataki@gmail.com(田ノ岡)

ツアーへの
お申し込み

QRコードから申込用のフォーム(<http://goo.gl/Oirl2d>)が読み込めます。

読み込めない方は氏名、参加希望ツアー名を明記し、tour.info.tohoku@gmail.comまでメールをお送り下さい。
いずれのツアーも定員に達し次第、〆切りに関わらず、募集を終了します。



2014年 新たな年を迎えて—陸前高田ボランティアツアーに参加して—



岩手大学・神戸大学と連携して、陸前高田市で遺品捜索のボランティア活動に参加(2013年11月)

私は支援室主催の陸前高田市での活動にこれまで5回参加しています。ツアーを通して、仮設住宅などで出会う被災地の方々に学ばせていただくところも多く、自らを成長させられる機会にもなっています。特に、当たり前のことながらも、これまで・これからの故郷の考え方は人によって異なっていて、復興は一筋縄ではいかない、ということが印象深いです。陸前高田ツアーは、神戸大学・岩手大学などをはじめとした他大学との連携で行うことも多く、自らは異なった環境で学ぶ学生との交流が刺激になります。

また、復興に関わる行政・企業・NPO団体のお話を聞くこともあって、より幅広い見識を得ることもできます。被災地にはまだまだ私たちの訪問を楽しみに待って下さる方もたくさんいらっしゃいます。新たな支援・寄り添いの形を模索していくことも必要かもしれません。2014年も引き続き積極的に活動していきます。近々では2月8日~11日でツアーを予定しています。その後も定期的に活動する予定ですので、皆さんもぜひ参加してみてください。

奥山 拓哉 (法学部1年)



仮設住宅で足湯のボランティア活動



2013年夏のボランティアツアー報告

学生ボランティア支援室では夏休みに8つのボランティアツアーを実施しました。その内、3つをご報告します。

Tour 1 福島スタディツアー [9/12~14]

三瓶 成美 (経済学部3年)

今回の福島スタディツアーで主には川内村や富岡町でのフィールドワーク、足湯ボランティア、移動保育などを行いました。人の住んでいない地域や除染施設を見て、地域の方々の本音を聞き、参加者同士でそれぞれの考えを議論し合うことを通して、自分なりに福島について考え抜いた3日間でした。「百聞は一見に如かず」と言うように、行って実際に見てみることで、以前よりも具体的な自分の意見を持つことが出来ました。現在原発再稼働を容認する声も大きい中で、その是非を議論する以前に、この原発事故によって当たり前の生活を奪われた人が現在も戦っているということを忘れてはいけません。自分1人で解決することはできなくても、この問題を考えて続けるきっかけを与えてくれたという意味で、このツアーは大変貴重な機会だったと思っています。



Tour 2 女川まちづくりスタディツアー [9/17]

天野 友貴 (工学部1年)



私は「震災復興とボランティア」という基礎ゼミで、「復興の街づくり」、「2年たった被災地の現状」を学ぶことに焦点をあてて女川町でスタディツアーを企画しました。具体的には、街づくりについての行政の意見と民間の意見を聞いて、両者のギャップを学び、また住民の方とのディスカッションを通して、当時の体験談や現在の生活についての生の声を聞きました。

このツアーを企画して、ボランティアで重要なことは「人とのつながり」ということを実感しました。なぜなら、関わった現地の方の力になりたい、協力して何かしたいという気持ちがボランティアの原動力になると思うからです。私はこれからも

も女川町で活動されている方のためにボランティアを続けて行きたいです。最後に…東北に来てボランティアできてよかった!!

Tour 3 雄勝復興まちづくりスタディツアー [9/24~25]

松原 久 (大学院文学研究科修士2年)

夏休み終盤の二日間、石巻市雄勝町でスタディツアーを実施しました。雄勝町では、中心部の壊滅的な被害、震災以前からの過疎の問題等もあいまって、まちをどう復興させるかが大きな課題となっています。そこで、行政、住民組織、商店街、漁業の代表者を訪ね、震災後の活動と今後の展望について伺いました。

雄勝町で注目すべきは、波板や名振といった小さな地区で、復興に向けた精力的な取り組みが行われている点です。一方で、行政と住民の間、住民と住民の間で意見の相違があり、参加者からは「コミュニケーションの難しさを感じた。地域が一丸となれないのか……」といった声が聞かれました。

事前に接点がなかった雄勝町でしたが、今回は2ヶ月間の準備のもと、総勢12名の方にご協力いただくことができました。また参加者は20名と、夏休みツアー中最多となりました。



学生ボランティア団体の活動

学生ボランティア支援室に登録している4つの団体の活動を紹介します。



震災復興支援団体 All for Tohoku (A4T)

梶原 惟央璃 (農学部4年)

私たち東北学生震災復興支援団体All for Tohoku(A4T)は、これまで被災地の小学生を対象にイベントを開催してきました。

昨年の11月10日には「第三回秋だ!芋煮だ!みんな de つくるみんなのあそびば in南三陸町」というイベントを行いました。これまでのイベント内容は、主にスポーツを中心にしたものでしたが、今回はそれらに加えて、東北の郷土料理である芋煮を皆で調理しました。

包丁や火を扱うため、初めての試みで不安なことも多くありましたが、保護者の方の協力もあり、無事イベントを終えることができました。今回子どもたちの笑顔がたくさん見ることができ、私たち自身も元気をもらいました。今後もこのような活動を続けてゆきたいです。

E-mail:all4tohoku@gmail.com URL:http://a4t.lolipop.jp/



TEDxTohoku

渡辺 絵理 (文学部4年)

TEDxTohokuは2011年の東日本大震災を受けて、東北大学の学生を中心に組織された団体です。年に一度、東北にゆかりのある方・被災地で活躍される方を登壇者に迎え、東北の復興・発展、地域社会のあり方について考える講演会を開催しています。3年目となる今回は「まだ見ぬ"みちのく"へ、ともに。」のテーマのもと、12組の登壇者によるプレゼンテーションやパフォーマンスが行われ、イベント後のグループディスカッションでは、参加者と登壇者が共に東北を再考する・変えるためのアイデアを出し合いました。当日は多くの方にご来場・ご視聴いただくとともに、学生を中心に80名以上のスタッフ・ボランティアにもご協力いただきました。イベントの様子はYouTubeにて近日公開予定です。

ウェブページ(イベント詳細・登壇者情報等): <http://tedxtohoku.com/>
写真(撮影 田太一彦氏): <http://www.flickr.com/photos/tedxtohoku2012/>



地域復興プロジェクト "HARU"

後藤 和紀 (大学院理学研究科修士1年)

私たちHARUは、震災直後から支援活動を行ってきました。現在は3つのプロジェクトに分かれて活動しています。いちごプロジェクトでは、いちご栽培の補助や、いちご狩り開催時のお手伝いなどを行います。教育支援プロジェクトでは、仮設住宅をお借りして自習室を開いています。また、仮設住宅で足湯カフェを行う足湯プロジェクトもあります。ほかにも、学祭で復興商品を販売したり、他大学との交流会を開いたりしました。今後も幅広い活動を行っていく予定です。

Mail:koho@haru-tohoku.org URL:http://www.harutohoku.org/



震災復興・地域支援 ReRoots

長田 佑太 (農学部1年)

ReRootsは「復旧から復興、そして地域おこしへ」をコンセプトに若林区沿岸部で活動しています。

復旧支援では農地のガレキ撤去やビニールハウスの撤去・組み立て、側溝の泥出しなどを行ってきました。今後はこれらの活動に加え、農業支援や『復興』『地域おこし』へ向けた活動が主体となってきます。復興に向けた活動は現在でも市民農園の運営やひまわりプロジェクト、さつまいもプロジェクトなどを行っています。ひまわりプロジェクトでは、昨年は約3万本のひまわりを植え、8月にひまわり祭を開催しました。また、若林区復興支援ショップりまあとを毎週土曜日仙台朝市内で営業しており、若林区の農家さんが作った野菜や復興グッズなどの販売を行っています。

E-mail:reroos311@yahoo.co.jp URL:http://reroos.nomaki.jp/